半島新女性線 【三】

火焰のごとき赤心
愛婦朝鮮側會員のNo.1
姜赫氏夫人金鄕根さん

「内地婦人の方はしつくりしますが大きいお腹を前に出してテクく歩く朝鮮婦人の背高姿はそう感心したものぢやありませんわ殊にわたしなんかお腹が前に出た方ですから街に愛國婦を持つて歩いたものだ、に小さい金を投げてくれたり、傍もう一つ加へるやうなもんですが朝鮮なんかに拘泥する時期ぢやありませんからね」

愛國婦人會朝鮮側會員の中でナンバー・ワンの努力家として評判の高い京城府内孝町一六七ノ一姜赫氏夫人金鄕根さん(四〇)がそれこそ文字通り内房を飛出して街頭に飛び出した所以を語る感想が之だ、事變直後初めて街頭をかけて外へ出た金さんは誰もとやかくいふのでもないのに周囲をはばかるやうな氣持で小さくなつて歩いたものだ、國防獻金や國際獻金を集めに行つた家の主婦がお布施でもくれるやうに小さい金を投げてくれたり、傍道婦人かなんかに間違へられて玄關ばらひを喰はされたりした時には「こんなこと止めてしまはう」と内心むつとした事も一度や二度ではなかつたが「時局なんかに拘泥する時機ぢやない」に鞭打たれて自分自身を激勵し續けた

「今では朝鮮婦人も大分時局に對する認識が深くなつて非常に仕事が樂になりましたが、それでもまだわからないことをいふ人がをりますのよ」

若い婦のある頬をふつとふくらまして昂然と語る金さんである、今こそ町内の一軒々々を熱心に説き廻つた金さん等の力によつて無茶なことをいふ婦人や不遜な振舞をする女も時局の認識をすつかり改めて眞心から協力するやうになつたが最初はそれこそ並大抵の苦勞ではなかつた、「戰爭にはそんなに金が要るものですか」と時局には我れ關せずといつた調子にぼんやりした婦人方や、警察の探偵かなんかと思つてか、びくくしてなるべく早く追ひかへさうとする女にけ金さんはさらむきにはならなかつたが、何もかもよく分つて居り乍も「日本の戰爭にあなたは何の關係があつてさう慌てゝゐるのですか」などひねくれてゐる相手に毅然と戰隊を張つたものだ

「東亞諸族の大同團結による新東亞建設など遠大な理想はしばらくおいて目下の利害關係だけから見ても朝鮮は内地を離れて一日でも立ち得るものと思ひますか『日本の戰爭』とは何事ですか、この事變は我々自身の戰ひであり建設であることをあなたはまだ悟らないのですか……」

計に筋を立てゝ說く金さんはこの遣りでは必ず凹ぐむのであつた、今は町内との家の主婦もそんな英逃げた考へを抱くものは一人もなく金さんと同じ心境でよく銃後の護りを固めてゐる

「考へが徹底してないのはひとり朝鮮婦人だけではありません分の寄合などに出て見ると言葉こそ通じませんが内地婦人の中にもあまりはつきりしない方がをるやうで心配です」

金さんの赤い氣焔は一言一語火を吐くやうだ【寫眞＝金鄕根さん】

お正月も忘れて
繁忙の京畿道警官に
自戒の心構へを配布

支那事變一年五ケ月の皆總は高警察部長、上野警務課長を中心に一致團結、年秋制定した「我等警察官の信條」を以て官吏綱紀の肅正を致し、以て官吏の模範たらしめん……〔以下判読困難〕

……月も忘れてゐるが、京畿道警察部では實に聖戰下の第二春を迎へて「京畿治安の確保は柔で半島統治の成果に影響するところ尠くない、本道警察官は戰時體制下の時局に對處し治安維持の重要任務を遂行 天皇陛下の忠良なる警察官たる自を念とし竭盡の擁護治安の確保に遺憾なからしめ以て民衆の信頼をあつめ社會の期待にそむかぬやう努めよ」と時局下に於ける京畿道警察官の心がまへを印刷にして全署員に配布我等の信條と併せて聖業顯現、銃後身護、民心把握、親愛協力を目標に長期戰下の銃後に張切つてゐる

"白衣正月の便り"
病院から盟ひの戰友に

山西の戰線で右脚に負傷をした勇士は白衣の中にいさましい正月を龍山陸軍病院で迎へた、黄河第一線に戰雄、森を迎へてゐる盟ひの戰友に宛て、白衣の勇士たちはかく書き送つた、以下はその"白衣正月"の便り……

戰線の戰友よ、僕達白衣の身が迎へた新年をお便りしよう、ベッドの上で除夜の鐘を聞いたよそしてはるかな戰線を想ひ去年の正月を思出した、去年は戰友達と一緒に〇〇で正月をしたのだつたなあ、雜煮を二回喰べただけであつたが樂しかつた、僕は傷つき心ならずも後送され陸軍病院の一室で再起の正月を迎へてゐる、僕達戰線のお心やりで雜煮はいたゞいたが戰線の戰友の事を想ふと居餘を祝ふ氣になれんよ、軍刀に手入れをして再び立つ日を待つてゐる、今度こそはきつとお役に立つて靖國神社にお參りするぞ、陸軍病院のお正月はきつて賑やかだ、四日には京城放送局が慰問劇で放送演藝をやることになつてゐる、有難いことには銃後の人々は僕達に非常に同情して呉れ正月を樂しませようと次々に慰問してくれる、僕達は傷ついても帝國軍人だ、戰友よ、安心してくれ、銃後は片時も戰線を忘れてゐない

朝鮮神宮で初詣
三日間で十萬人
在支の一線にか
お札は引張り凧

支那事變第二春の朝鮮神宮の初詣では二日間で八萬七千七百五十二名、三日の分を加へると優に十萬を突破すると見られ、盛り上る國民の聖戰下の祝賀の姿を物語つた、お札は飛ぶやうに賣れた、みんな三枚づゝ支那の第一線に送られるものだらう、神前に額づく人の捧ぐる興亞日本への力強い決意こそ頼もしい限りだつた

念の入つた
狂言強盗
傭人泥を吐く

【平壤電話】三日午前三時四十分ごろ、平壤府旭町九下宿屋日の丸こと森アキさん(五〇)方に一名の兇器を持つて強盗が侵入、現金七十一圓八十錢と洋服二着(時價五十圓)を強奪、逃げかけた傭人金石俊(二〇)の左腕を切りつけたとの急報に接した平壤署では寺下捜査主任以下非常線を張ると共に田中警部補指揮の下に下條司法主任が現場を臨檢したその結果賊侵入の形跡なく殊に傭人李の陳述に曖昧な點があるので追及したところ遂に包み切れず強盗け眞赤な嘘で盗人猛々しい狂言なることを自白した、李け主人の箪笥から現金七十一圓八十錢及び洋服二着を窃取し犯行をくらますため同家の裏庭に隠し更に左腕に傷をつけ外部から賊が侵入した如く見せかけたるものであつた、目下餘罪取調中

思ひがけぬ
大物を捕ふ
平壤署お手柄

【平壤電話】三日夜の狂言強盗にこれは大きい副産物——平壤署では狂言強盗の非常警戒中平壤驛前で鈴木巡査が擧動不審の男を捕へると、これは京城府清進町二三二大林龍濟(二八)といふ男の二十五日平壤本町昭和洋行に侵入し金庫を破壞して一千餘圓を盗んだ外數ケ所のショーウインドーを破つたしたたかもので、正月になつてからも實に四件の犯罪を犯しておりさらに平壤博物館の浪樂遺物を盗んだのも同人の仕業でないかと取調中である

京師敗退
中等ラグビー全國大會第二回戰(三日)
秋田工業3——3京城師範
(抽籤にて京師敗退す)

新春早々
殺人事件

【大邱電話】大邱府内飛山洞一七一反物商鄭洪植(四一)こと新町五六六無職李錫五(二〇)とは三日午前二時ごろ府内新町で酒をのんで勘定のことから口論を始め一瞬飲食店を出たが、鄭は新町大邱府立病院前で突然隠し持つた短刀で李の左胸部を突きさし逃走した、李は新町東山病院にかつぎこまれたが、四日午前十一時ごろ死亡した、大邱署で鄭の行方を搜査中

山藤丸坐礁
【熊本電話】

熊本遞信局への入電によれば三日午前六時二十二分、山下汽船の山藤丸は北緯二十五度東經百二十五度二十一分宮古島二浬の地點で坐礁、乗組員四十四名は目下の處危險はない模樣だが嚴重監視中である

南洋へ向け航行のもの
【神戸電話】宮古島附近に坐礁した山下汽船山藤丸は大正九年建造總噸數五三五〇屯(船長池田友四郎氏)で昨年十二月三十日北海道の時戶を出帆、南洋カラペン島に向け鑛石その他を積み込みのため航海中のもので、神戸本社へは坐礁の報のみ入電して居るが詳細不明である

獻金帖

▲大田府本町二ノ八五中村勝三氏は年賀を廢止して金百圓 恤兵金へ▲京城府瑞麟町九一井部士氏は節約金三百圓を防空器材費へ▲平北龍川郡府羅面民一同は金百三十九圓を皇軍慰問勞金へ▲忠南瑞山郡瑞山普小學校六年生柳基重君は人命救助に依り道知事から授與された金一封中から金一圓を軍用機獻金へ▲咸北羅津小學校一年生秋山傅君は子供心にも時局を認識してお小遣を節約金二圓一錢を朝鮮防空器材費へ▲黄海道瑞興郡瑞興面瑛波里雜貨商關學氏は例年年末に得意先に贈る「カレンダー」費を節約して金十五圓を朝鮮防空器材費へ▲江原道平康郡福溪國防婦人會では時局に鑑み國防の益々重大なるを認識し會員の活動に依り蒐集した廢品の賣却代金百十圓四十五錢を皇軍慰問金へ▲京春鐵道會社員一同は簡易食を實行し節約した金五百圓を朝鮮防空器材費へ▲京畿公立商業學校職員生徒は簡易食、徒歩通學で節約した百十九圓三十九錢を恤兵金へ

渡ノ嶋部隊長
【新京一日同盟】關東軍司令部二日午後一時發表　渡久雄部隊長は舊臘廿二月二十八日猩紅熱、加答兒性腦炎を併發し爾來加療中の處一月一日午去せり

京城また膨れる
近郊開拓計畫進む

京城府の都市計畫、土地區劃整理事業の遂行は、昭和十四年を迎へて新しく各方面に亘つて工を進めることゝなつたが、商業、工業、住居等の地域制設定と私道規則の制定によつて理想的な計畫が實現するはずである、敦岩、永登浦の兩區劃整理地區も今年は完成し、二百三十萬坪の大新住宅地が府民に提供され、八日十萬を收容する理想的住宅地域としてお目見得する、更に大峴整理地區五十萬坪の換地豫定地も發表され、八月から愈々よい整理工事が開始されるが、該地區は昭和十五年度となつてゐる

また今年から新しく實施される土地區劃整理地區は漢南、番大沙斤、龍頭の四地區で整地面積百五十萬坪、事業費百五十萬圓の大工事である

このうち漢南區劃整理の進行に伴つて府有地十萬坪の開放も愈よ具體化する筈で、府營住宅の年賦償還法による賣却案等も同時に實現することになり、京城の住宅難緩和に大きな役割を果すこととなるう

なほやゝ遅れて清凉、新堂、麻浦の三地區百廿萬坪に對しても區劃整理施行の命令が下るものと見られてをり、このところ大京城の近郊開拓工作は昭和十四年を轉機として更に新たなる巨歩を踏出すこととなつてゐる

"勇士の子弟"育英に一歩前進
せめてもの忠魂への手向けにと
兩肌ぬぐ京畿軍事聯盟

新らしき年は大陸建設と並んで銃後建設も前進、勇士の次世代育英に銃後の温い手がさしのべられることになつた、戰歿者遺族子弟の世話は現在京畿道でその扶助とならんで入學就學の斡旋をしてゐるが、これだけでは亡き勇士の親心を立派に生かすに不充分と、京畿道軍事後援聯盟で銃後々援を更に一歩前進せしめ、せめて中等學校を出るまで見てやり、せめてもの忠魂への手向とするためその子弟育英に乘り出すことゝなつた、これに要する所要經費約十五萬圓を昭和十四年度豫算に計上するため目下關係方面と打合せ中である

甘蔗支部長語る
これに關し甘蔗支部長は左の如く語つた

「まだ具體的な成案を得てゐるわけではない、しかし銃後國民としてあたり前の義務であるから勿論研究せねばならない事である、いづれ道會を經て決定せねばならぬことであるから、それまでは何とも申上げられない」

聯盟の業績
「戰線の勇士に贈るお年玉」と軍事後援聯盟から前線に送られた品は清酒二斗入り三百樽、ウイスキー二百本、羊羹五千一棹、煙草五月菓子等の一行の携へた、南國皆揮毫の眞綿チョッキ三萬枚に罪状書石百冊五組、將棋駒三百十組、蓄音器五十臺雜誌千六百冊石「かちどき」十二萬包、本府情報內務部二百慰問袋の浪曲敗布大滅ラヂオ四十臺などであつた

獵人二名射殺
またソ聯の不法

【東京電話】樺太北緯五十度國境法度違反事件については既報遣止めにおいて頻發するソ聯側官憲の不法に對し外務省を通し嚴重抗議中の所樺太廳では一日午前十時次の通り發表した

一、昨年十一月二十二日東部國境附近國境における清水長太郎および木村宗一兩名に對するソ官憲不法拉致事件については先きに發表せる所なるがその後當廳としては外務省を通じ嚴重抗議申入れ中の所今回ソ聯政府は在京大使を通し右二名は武裝し居りたるを以て射殺したる上埋葬せるものなりとの回答をなし來れり、國境線より二十メートルも邦領にありたるに拘らずこれを拉致し去るとは不都合なるのみならず所持してゐた狩獵銃は狩獵するためなるは一目瞭然たるに武裝せりと稱し射殺したりとはソ官憲が如何に狼狽せりと雖も狩獵者二名位のものが彼等に對し害意ありと見まがふはずなく、右は暴虐ソ官憲の非人道的行爲を拾飾する辭柄に過ぎざるものと認むべく最近のソ聯國境守備隊員の暴戾の血迷ひたる邪措は言語道斷と云ふの外なし

二、昨年十二月二十三日頃同じく國境方面にて柳瀨銀太郎なるもの丶行方不明となりたる事件あり、これ又前記同樣の無法により拉致の上これを射殺したるに非ずやとの懸念を生ぜり

三、更に先月三十日午後一時頃我國境に銀色の兩翼に赤色に星の印ある一ソ聯飛行機一機が三百メートル低空を越境し辰古上空まで侵入し來れり、右飛行機は六分間飛翔の後ソ領に引返へしたる

急告事題話
☆……房総に頬を赤くした半島青年が今年の正月はめつきり殖えた——よろしい
☆……二人、三人肩を組んで よろめく足で『戰勝の正月』を謳歌しながら通る光景——よろしい
☆……電車の吊皮にもたれて『日本男子のわしけね』といつといつた途端ゲーツと出したのは些かすぎたりと言へどもまずよろしい
☆……しかし頼む、今年からは同じ光景を樂り正月の街に二度と繰展げないことを！

京城地方(今日)
晴れたり曇つたり

賀戰捷之新春併而謝皇軍之奮闘

龍山 松華 電話龍山九三九二八番

京城湯屋組合

京城府三坂通三三五 鐵道工業株式會社 京城出張所 電話龍山一四一六番

京城府竹添町二ノ六九 株式會社 柴田組 電話光化門一六八〇番

京城府古市町十二番地 淺野セメント株式會社 京城營業所

京城府岡崎町七番地 合資會社 關東組 電話龍山（4）一一四四番

東邦鑛業株式會社

京城府黄金町一丁目一八一 北京料理 雅叙園 電話本局二一五八二・二八六二番

京城府古市町四十三番地 小林商事合資會社 電話本局（2）六七〇三・〇六二九番

株式會社 伊藤商行 朝鮮計器株式會社

京城府元町一丁目 合資會社 カナヘ商會 電話龍山一五一番

京城府南大門通四丁目二十二番地 株式會社 山田商店 京城出張所 電話本局（2）四八三・五五八番

京城府本町一丁目四十八番地 株式會社 横山商店 電話本局（2）二〇七・二六八七番

杉山製作所 杉山久 京城府竹添町二丁目百五十七番地

京城府岡崎町七番地 株式會社 北陸組 電話龍山（4）一一七九番

京城府漢江通十一番地 日滿土木株式會社 電話龍山（4）一四七番

專賣局 新義州出張所 職員一同

木工作所 東島要作 新義州府榮町

ライジングサン石油株式會社代理店 朝鮮新義州府老松町二〇番地（私書函二三號） 貿易商 合資會社 信一商會

新義州府老松町四番地 朴天一 電話二九一番

新義州府榮町 浦川鐵工所 代表者 浦川 工場主任 金崎 智明 茂

日滿物産株式會社 新義州支店 取締役支配人 浦上 辨二

滿洲國安東市中興鎭 株式會社 六合成造紙廠

滿洲國安東省安東市中興區桃源 鴨綠江製紙株式會社 常務取締役 牟田吉之助

滿洲窯業株式會社 安東支店

安東窯業株式會社

銘酒醬油醸造元 田原商店 安東縣三番通三丁目二番地

安東石炭商組合

新義州府錦町二番地 木材商 林商會 主 井昌

新義州稅務署 職員一同

御料理 玉川 新義州府櫻町

新義州鐵工所 新義州府濱町 電話四〇三番

太田庫治郎 新義州府

松村保治 新義州府

池田達雄 新義州府

高木延藏

竹本利作 新義州府

濱名增雄 新義州府

崔昌朝 新義州府

高橋春一 新義州府

阿部繁男 新義州府

野田憲男 新義州府

池清 新義州府

關口聽 新義州府

白基肇 新義州府

藤本嘉三治 新義州府

趙尙鈺 新義州府

磯谷爲藏 新義州府

井筒屋旅館 電話三三七

日滿ホテル 電話二四七三

紅屋旅館 電話二四五

中央旅館 電話二八一九

宇佐屋旅館 電話二七三

大和旅館 電話二八八

滿洲旅館 電話四四二

元寶旅館 電話二〇四五

富府屋ホテル 電話二〇四七

ホテル 電話二五〇九

こざぶき旅館 電話二四〇九

安東ホテル 電話四三二

櫻屋旅館 電話三三二

三七旅館 電話三三四

ミクニホテル 電話二三四六

秀誠旅館 電話二八七六

日の出旅館 電話二五四一

赤心閣 電話二一一九

崔益夏 新義州府

鈴木賢三郎 新義州府

三游學校 校主 上田稔 新義州府

飯野正太郎 新義州府

鄭元燮 新義州府

伊東俊一 新義州府

新義州商工會議所議員 國境運送社 李載奎 新義州府本町 電話六一八番

谷中山 新義州

土木建築請負 菅貞助 平北

姜利璜 新義州府

瀨之口藤太郎 安東市

守屋主一郎 安東市

藤平泰一 安東市

安東市六番通九丁目貳番地 丸鴨精米所

大下酒造場 安東

近藤松五郎 安東市

杉本一守 新義州府

原田市松 安東市

村山小兒科醫院 新義州府本町七番地

新義州金融組合

鴨綠江木材産業組合

新義州府榮町五丁目 平北穀物協會

新義州府濱町一ノ七番地 共營木材株式會社

和義金融組合 新義州府

平安北道農會

杉原合資會社新義州出張所 主任 阪谷宇吉 新義州府濱町一番地

株式會社 新延鐵工所 代表取締役 朴龍水

新義州警察署 職員一同

新義州鹽賣捌人 合組

新義州運送株式會社

新義州製材合同會社特約販賣 建築材木店 主 宋寛哲 新義州府 電話 自宅

營業科目 紀柳細工、延繩類、製造販賣 新義州振興組合 電話 長 一〇九四番 五一六番

新義州府榮町四丁目 糧米業 貿易商 新興商會 電話（シ）二〇八番

鴨綠江輪船公司 新義州府

合資會社 豊林商會 新義州府櫻町五四番地 電話 長 三六九番

新義州府常盤町一丁目二十番地 平安無盡株式會社

朝鮮府國合資會社 梅澤虎吉 新義州府

新義州 日滿運輸株式會社 取締役 安用

新義州府 多獅島鐵道株式會社

新義州郵便局 職員一同

新義州府廳

平安北道立 新義州醫院 職員一同

平安北道 山林會

新義州稅關職員一同

平北鐵道株式會社 新義州自動車營業所

鴨綠江運輸株式會社 新義州府

新義州木材販賣株式會社 取締役社長 表谷佐平

國境商事株式會社 取締役社長 金義明 新義州府本町

新義州府 鮮滿交通株式會社 取締役社長 吉田雅一

安東驛前七番通二番地ノ二 牡丹江木材工業株式會社 取締役社長 伊藤勘三

おみやげ物店 安東縣四番通六丁目二 金子商店

鴨綠江製材合同株式會社 安東市

滿鮮坑木株式會社 安東市

滿洲國安東市南三條通五丁目 無限製材株式會社

安東市公署

安東市 日陞公司

安東取引所 取引人組合

三橋本店 三橋別莊 新義州府櫻町

御料理 ひさご 新義州府櫻町

割烹 千成 松乃食堂 寮 新義州府

王子製紙株式會社朝鮮工場

朝鮮銀行新義州支店

朝鮮殖産銀行新義州支店

朝鮮商業銀行新義州支店

朝鮮貯蓄銀行新義州支店

朝鮮運送株式會社新義州支店

共同保管株式會社

新義州府鴨川町壹番地 新義州製材合同株式會社

平北揚西 鴨綠江土地改良株式會社 取締役社長 金基鴻

平安北道廳高等官食堂員一同

木材各種 新義州營林署

平安北道各金融組合 朝鮮金融組合聯合會 平安北道支部

西鮮合同電氣株式會社 新義州支店

新義州府内公立學校長一同

安東銀行集會所

株式會社安東取引所

日滿兩國政府合辦 鴨綠江採木公司

朝鮮の皆様へ

高麗姉ちゃん

霧立のぼる【東寶東京撮影所】

私は花が好きだ。その色より、その香を好む故に、私の花に對する好みもだん〳〵變つて來た。果實熟すれど口を開かざる梔子のほうつと白い大きな花が、夕闇に光つてゐるのを最も好む。得も云はれぬ甘酸つぱい匂ひが、私の鼻を刺戟する。梔子の香は、私を幼年時代にひきもどす。その白い花の蔭に、私にとつてかけがえのない叔母さんがゐるからだ。私は長女で、兄や姉を持つ樂しさを知らずに育てられたが、母の末の妹である叔母さんに、肉親の姉のやうな親しさと懷かしさを今も感じてゐるのだ。

それで私は子供の時から、この叔母さんを常に、

『高麗ねえちやん』

と、呼んでゐた。しかし高麗ねえちやんは私が物心つく時分、さる軍人に嫁して、遠くへ行つてしまつた。私は未だにその時の、高麗ねえちやんの美しい眞ッ白な顔を思ひ出すことが出來る。その後高麗ねえちやんは、私が寶塚少女歌劇に入學した時、わざ〳〵訪ねて來て、

『まア、大きくなつて――』

と、云つて心から喜んでくれ、その舞臺の私を勵ましてくれた。その時頂いた人形を私は今も大切に持つてゐる。太子堂の私の家の小さな庭には、梔子を植てある。甘美な香をかぐ毎に高麗ねえちやんが思ひ出されてならない。

朝鮮！と、聞いただけでも懷しい。その昔高麗といつた朝鮮の山に、私の高麗ねえちやんがゐる。今や叔父さんが部隊長として第一線に立たれ、高麗ねえちやんが獨り淋しく留守をしてゐられることを教へると、私は飛んで行きたいやうに思ふ。

先日私が映畫物語りを放送した時、高麗ねえちやんから

『とても聲が老けて聞えたが、上手になつたのには驚いた。』

と、いふ手紙を貰つた。私はまだ新春を迎へて二十三歳である。自分ではさう老けたとは思はないのに、と、私は早速不平の返事につけ加へて獨り淋しい高麗ねえちやんを慰めに行きたいと書いてやると

『この事變で、夫や兄や弟の出征を見送つてゐるのは、私一人ではない。そんな弱味で見舞に來て貰はなくていゝから、それよりそんな暇があつたら、尊い戰傷の方々を慰めに行つて下さい。これが銃後の女性のつとめです。』

と、いふ流石に軍人の妻らしい立派な手紙を頂き、私は自分のいたらぬのを恥ぢた。

私とても高麗ねえちやんに云はれるまでもなく、大日本國防婦人會の一員として、出征兵士の見送りに、戰傷兵士の出迎えに、出來るだけのことはしてゐるが、實はまだ一度も病院に戰傷勇士の方々を見舞つたことがなかつたのである。

私は友と二人、先日、好きな花を持つて、陸軍病院の尊い戰士の方々を見舞つた。聞いてゐた以上に痛ましい負傷をされた方々の御姿を見るにつけ、何故もつと早く來なかつたかと私は心から悔いたのであつた。その日、私の生涯忘れることが出來なかつたのは、兩眼貫通銃創で、全く光を失つた勇士の方が、私の名を聞いて、堅く手を握り、『貴女のやうな有名な方に見舞はれて自分は嬉しい』と、ニッコリ笑はれて、

『この花は、どんな色をしてゐますか』

と、問はれたことである。私は眞ッ赤なカーネーションの香をかいでゐられる、その勇士の方の顔を正視することが出來なかつた。不具の身を悲しみとしない、その毅然たる姿に私は心打たれ、淚が眼にあふれ出るのを禁ずることが出來なかつた。

私はこの日の印象を、詳細に朝鮮なる高麗ねえちやんに知らしたところ

『その印象を永久に忘れぬやうに――』

と早速返事を頂き、このいたらぬ、小さな姪を勵まして下さつた。

私は暖い冬の陽がチカ〳〵さしてゐる三軒茶屋の若林あたりまで散歩に出る。私の住居から近いせいもあるが、ずつと昔にこゝに住んでゐた高麗ねえちやんの家を忍ぶためだ。しかし、もうこゝらあたりも、小さな住宅で一杯で、あの道、この道――かけてねえちやんに手ひかれて歌をうたつた面影は少しも殘つてゐない。今朝も私はこれから若林に出かける――

『高麗ねえちやん、おたつしやで――』

遙かな朝鮮、懷かしい朝鮮に、私は私の童心を呼びかける。これは、せはしい女優稼業の私にとつて最も心豊かな時である。

半島への旅

花柳すみ子

私は大變な旅行嫌ひなので、滅多に旅には出ません。冬あまり寒いので温泉へ出かけたりすることもありますが、すぐ家に歸りたくなつて一日で引上げて仕舞つたりします。それでも出掛ける時は、今度こそ永くゐようと思つて出掛けるのです。それだものですから皆んながよくその癖を知つてゐて『今度も一日でお歸りですか』などとひやかします。今度こそそんなことは絶對にない、と思つて出掛けるのですが、やつぱり旅へ出ると里心がついてお恥しながら歸つてきて仕舞ひます。

さう云ふ私が京城日報社から招かれて朝鮮へゆくときまつた時、却つて皆んなの方で驚きました。『本當にいらつしやるのですか、今度は歸りたいつても、その日のうちなんかには歸れませんよ』とひやかされました。

私は旅行嫌ひな癖に、旅行のことを考へるのは好きなのです。出掛けるとすぐ歸りたくなる癖に、汽車に乘ることや見知らぬ景色のことを考へるのは大好きなのです。それに旅行の支度をすることも大變に好きで、あれやこれやと考へながら、荷物を揃へるのはとても好きです。さうは云つても、實際は内弟子の者が荷物を揃へることになつて、私は口先ばかりだけなのですが。

朝鮮へ來ないかと京城日報・鮎谷さんからお話を受けました時も、その旅行嫌ひが出て、出掛けてすぐ歸りたくなることも忘れてお引受けした譯なのです。もつとも朝鮮へは是非一度は行つて見たいと思つてゐましたし、他ならぬ京城日報からのお話なのと、龍山の陸軍病院でも慰問をといふことなので、かねがね私達の樣なものでも何かのお役にたてばと思つてゐたものですから、すぐとお引受けした譯でもあつたのですが。

ところが私が京城へ行くとが知れますと、不斷の私を知つてゐる人達は心配してゐるのです。『花柳さん、朝鮮には汽車ばかりではゆかれませんよ。お船にのらなくちやあならないんですよ。そのお船がまたゆれてね』などゝくさらせる人もあります。『先生、虎が出るんぢやありませんの』と心配さうに聞くお弟子さんもあります。いろんなことを聞かされてゐるうちに、段々私も朝鮮は遠いところだ、これは大變なところへ行くのだと思ふ樣になりました。

これは全く呑氣に安請け合ひをし過ぎたかなと、少し心配にもなりました。

しかし實際に出掛けて見ますと汽車の旅行も愉快でしたし、心配してゐたお船もゆれませんでした。本當に樂しい旅行でした。それに京城が大變いゝところなのですつかり東京へ歸りたいなど云ふことは忘れて仕舞ひました。京城は本當を白状致しますと、もつと田舎なところかと思つてゐたのですが、どうして素晴らしい近代都市で、まるで東京にゐる樣でした。建物も東京に劣らない立派なものが澤山あります。往來する方も皆んな東京で見る方も同じ樣な方ばかりでしたので一寸も東京へ歸りたくなつたりはしませんでした。

京城のお孃樣が語る「私のお正月」

(三) 思ひは戰地に

品川彈一氏令孃　品川潔子さん談

聖戰始まりましてもはや第三年を迎へると思へば感慨無量でございます、何かにつけても戰地のことや戰死をなされた方々や、また御遺族樣のことなど偲ばれましてお正月と申しましても少しもお正月のやうな氣持は致しません、唯ひたすら戰地の兵隊さんに感謝の念を捧げるとともに、なほ一層の緊張を身に感じます今年のお正月こそは、出來るだけ靜かに質素の中にも意義深く新春を迎へようと存じます、私は常に修養のお話を承ることにつとめてゐますが、今年は現代の日本女性として恥かしくないやうに勉強致したいと存じます、私は日頃お小遣を儉約して慰問袋を戰地の方に送るやうにしてゐますが、先日は偶然にも私の慰問袋を受取られた方が戰地から歸られまして、わざ〳〵家まで訪ねて下さいましたので今年もお稽古の暇にはお慰めの文を認めたり、シャツを縫つたりして皇軍將兵に力を盡したいと存じます

大陸へ

横山美智子

小學校の時、大の仲よしであつた大村さんといふおとなしい少女が、朝鮮へ行つてから、私は、朝鮮に、しきりに關心をもつたことを覺えてゐる。

懸い〳〵ところだといふのも、そんな、ひどい寒さが氣持がよいと思ひ、虎がゐるといふのも、お伽噺のやうで、恐いより遠くで羨ましくへると面白さうだし、細ぢリンゴの實るのもやつぱりお話の中の風景のやうに思へた。だいぶ大きくなつたころ、金さんといふ朝鮮から來た娘さんを知つた。

教會で知合になつた金さんは、蒼いほど白い顔色で、髪がとても黒くて美しかつた。十七で、もうお母さんになるのだときいて、私はびつくりした。

きめのこまかい金さんの頬や光りの強い眼が印象的で、十七といつてもどことなく二十二三の落着きが、皮膚や身體つきをひきしめてゐた。日本よりもきびしい大陸の氣候風土が、女性の心身を若いうちから、こんなにぴつたりときたへあげるのだと思つた。

このごろ、私どもの知人で最も親しくしてゐる青年の一人が、京城のS工業會社へ就職した。朝鮮をもつたその人からの通信で、今、私の心には、京城が、非常に親しいものになつてゐる。

――何處の家からも温突や、スチーム、ストーヴの煙が灰色の朝とでもいひますか、何だかソヴイエートの映畫を思ひ出します。『ウクライナに秋が來た、早く刈入れをしなければ』とサブタイトルが出ると、稔れる穂麥が映えでせう。そして程なく長い冬がはじまるとか何とか說明があると木枯に震へる葉の少ない樹木と氷の張つた河が寫し出される。あのソヴイエートのトーキーを想ひ出して下さればいゝのです。僕の寒さにふるへて、走る樣にして歩く出社姿もヘタから見ると面白いでせうが、ヨボヤオムニーのゼステユアも又見るべきものがあります。

はじめての冬に直面して最初は[illegible]カタルを心配したり、要領を感情に因へられたこの人も次第に冬の京城を享樂――とまでは行かなくても、寒さに對抗して青年の力をそこに試みようとしてゐる餘裕が感じられて來た。

この冬は一昨年よりも暖かつた、京城も人が殖えるその密度とともに温くなると見えますといふやうなユモラスなことも書いてくるやうになつた。

『京城の娘』と仇名されたといふその若い青年と冬の京城の街とを繪のやうに心に眺めて見る。

東京の、大阪の、どんな一流の銀行會社へ就職したより、この人にとつて、ほゝゑましいものと希望とを感じるのである。何故なら新しいわれらの同胞のなかに、純眞善良そのものゝやうなこのひとが交つてゐることは、指導的立場としても心づよい頼もしさなのである。一方、このひとにとつても、大陸の寒風と、異つた環境に置かれた體驗が、必ず、内地の空氣から受けるよりもずつと強力な應力を感じ、それは、又と得られない自己練磨となるからである。

しかし、何といつても未婚のかうした青年たちにとつて、第一の悩みは遠く海を渡つて行く花嫁のもとめがたいことであらう。

――男の子でさへ歸りたくなつて、義理も顔も踏みにじつても引上げる今日の大陸なのです。まして、女の人は。居住の地を選ぶ事に關しては、結婚前は、非常に彈力性に富んでゐる際ですから。

と正直に、内地の若い女性が、海を渡つて行きたがらないことについての寂しさを洩らしてゐる。

この寂しさは、このひとのみがかこつ嘆きでなく、かの地にある凡ての未婚青年にとつての重大問題と思ふ。

これは、いま、急に、若い女性の心理を、内地の大都會中心主義から、大陸へと轉向させられないとしても、近い將來に、きつと、新鮮に興味と希望を大陸の地に見出すやうになるのではあるまいか。

ことに、此度の事變を、轉機として、内地の若い女性は、新しい飛躍を思つてゐる。小さな安全よりも、戰後に來る眞の安定を求めようとする積極性を自覺させられるであらう。

云ひかへれば、女性自身、創造の生活でなければ、飽き足りなくなりはしないか、私なども、もつとよく、大陸の諸相を知つて、文藝の力をとほして、若い女性の大陸への關心を呼びさますやうなものも書いてみたいと思つてゐる。

やはり、この青年からの通信によると、あちらに一緒に行つてゐる御夫婦は、とても内地では見られぬ愛情こまやかなものがあるといふ。老年に近い夫婦にも、それが眼立つのは、内地と違つた異色ある環境だといつてゐる。こんな點から考へても、熱烈な愛情のいちはやくとび去りやすい内地の夫婦生活が、かへつて大陸でのそれより安全と思ふのは錯覺であるといへよう。

寂しい土地で、新しい開拓に協力して立ちむかはねばならぬ立場の中で、しつかりした夫婦生活をきづくことこそ、盡きない愛情を自分のものとする聰明な道であると思ふ。

朝鮮への旅

横公子

映畫でこそ皆樣から種々と云はれてゐますが、家にゐてはまだ十八歳のほんの小娘です私が、今度における感想とか感想など、とてもそんな纏まつたものはありません。またあつたとしても大人の世界から御覧になれば實につまらないものでしかないと存じます。でも私としての少女らしい感じも無いではありません。一口に申上げますと、實際の處、私には印象も感想もまるでないと申上げてよいのです。實のところ私としても『こんなはずではなかつた』と思ふのですが、どうしても印象や感想が浮んで來ないのです。と申しますのは現在の朝鮮はそれ程内地化され……と申上げるより内鮮一體の融合とでも申しませう。それが實現化されてゐるのではないでせうか。それ故に私はどうしても私の想像してゐた朝鮮に旅行したとは思へないのでした。

賀戰捷之新春併而謝皇軍之奮鬪

大田醫師會

大田府榮町一 石炭商 富士商會 電話四一九番

忠南道會議員 村尾伊勢松 大田府榮町

大田稅務署

大田朝鮮酒 酒造組合

大田稅務署長 池田袈裟六

日本通運株式會社 大田貨物出張所 高尾邦夫

日本興業銀行株式會社 大田支店長 安藝芳人

大田專賣局出張所 所長 金學萬

大田刑務所 職員一同

硫酸錦貨卸 大阪朝日、東京朝日 京城日報取次 神戶海上火災保險代理店 鎮浦商店 大田府本町二 電話六五二番

戰爭に付き年賀缺禮仕候 平井晴美 大田府春日町二

大田府本町二 藤井洋行印刷所 藤井正治 電話一二三番

忠南土木建築協會 大田府

公州邑本町 行友會支部

公州出張所

洪州金融組合

朝鮮運送株式會社公州出張所 所長 松浦八郎

忠清南道公州 南鮮合同電氣株式會社 大田支店 公州出張所

大田酒事務所 所長 沈相台 外職員一同

忠南大田 穀物組合 代表者 李

儒城親和會

公州邑長 高原圓治郎

道立 公州醫院

大田府榮町二 荒牧次彥

大田 小野自動車部 電話七番

大田府春日町 辯護士 北村直甫

大田府春日町一 松浦屋 電話一三九番

大田府本町二 鍋川伊兵衛

鄭僑源 忠清南道知事

堀池德治郎 郡是製絲大田工場長

青柳八百造 大田

野口三郎 大田府尹

崎山建次

佐藤正信 忠南無盡會社支配人

松原啓一 大田東拓支店長

[illegible] 大田殖銀支店長

[illegible] 大田道立醫院長

[illegible] 大田

大德郡
外南尋常小學校
鎮岑尋常小學校
新灘津尋常小學校
東明尋常小學校
山內尋常小學校
儒城尋常小學校
九則尋常小學校
柳川尋常小學校
杞城尋常小學校
懷德尋常小學校

大田府春日町三 伊知地商會 電話六六三番

大田驛前 ハセベ食堂

大田府本町一 辰巳藥局 辰巳勇

朝鮮大田府本町二丁目 芦田朝鮮支店 電話二六五番

大田府本町二 土井深商店 電話六六五番

大田府本町二丁目 松永商店 電話六三番

大田府本町一 ますや酒店 電話二六七番

大田府本町一丁目 齋藤金物店 電話三四三番

大田府春日町 古田商店 電話六三三番

洪城郡洪州面 職員一同

忠南青陽 青陽釀造場

株式會社東一銀行洪城支店 支配人 成

洪城郡教育會

大田府春日町 畑商會 電話八三〇番

大田 本券番

朝鮮大田驛前 菊水 新井利邦 電話三三〇番

大田府春日町一 杉光武右衛門 電話八〇三番

大田驛構內 四百番會

大田府本町二丁目 綿布商 西村哲次郎 電話一四六番

大田府本町二丁目 合資會社南部京平商店 電話四五番・一五〇番

大田府榮町一 昭和印刷株式會社

株式會社大田魚菜市場 電話一一七番

大田料理屋組合

大田商工會議所

大田本町二 若林茂商店 電話四六

大田府大興町 金剛酒造株式會社

煉瓦、土管、製造販賣 大田煉瓦工場 安井金之助 電話六一八番

大田旅館組合

大田 貸座敷組合

公州稅務署

公州酒造組合

大田 第一飲食店組合

大田 料亭大芳仲居一同 電話二二一番

大田府春日町一 合資會社末吉組 電話一五三番

大田劇場 電話三〇六番

保寧郡校長團

青陽郡守 李觀熙
青陽郡內務課長 金英權

忠南
金成醫院 金基成
泰陽醫院 權泰翊

儒城溫泉 鳳鳴館

公州郡農會

公州郡米穀統制組合

公州女子師範學校
公州公立中學校
公州公立高等女學校
公州公立農業學校
公州常盤尋常高等小學校
公州公立本町尋常小學校

公州刑務所 職員一同

公州郡 邑外校長會

大田府春日町二ノ四五 京城日報忠南支局 電話二四四番
支局長 直島福治
記者 伊牟田一賀
記者 李甲鳳
營業班 加藤亮一

大田府

大田郵便局 局長 合田公久 外職員一同

大德郡廳 郡守 鄭雲成 外職員一同

大田鐵道事務所 水曜會

大田木材商組合

大田
加藤寫眞館
溝部寫眞館
中野寫眞館
松尾寫眞館

朝鮮山林會 忠清南道支部

京城遞信分掌局 大田工事出張所 職員一同

大田府榮町一 大田皮革株式會社

銘酒忠誠釀造元 株式會社長尾商店 大田府春日町三ノ三〇五 電五六五番

大田土曜會

忠清南道 警察職員一同

大田府會議員一同

大田府教員會

忠清南道

忠清南道立大田醫院 職員一同

忠清南道廳 食堂會會員一同

忠清南道農會

青陽郡教員團

昭和十四卯年健康略暦
太陽暦
四方拜 一月一日
元始祭 一月三日
新年宴會 一月五日
紀元節 二月十一日
春季皇靈祭 三月廿一日
神武天皇祭 四月三日
天長節 四月廿九日
秋季皇靈祭 九月廿四日
神嘗祭 十月十七日
明治節 十一月三日
新嘗祭 十一月廿三日
大正天皇祭 十二月廿五日
武運長久
家内安全
皇軍萬歳
歳徳 寅卯の間 万吉
支那暦
長壽法
二日酔惡酔
胸やけ溜飲
食あたり水あたり
疲勞衰弱
ゐもん袋
およそ便秘がちなる人ば命みぢかし。この事よく〳〵心にとゞめおきて、食べもの、飲みものに氣をつけ、うんどうを怠るべからず。便とゞこほる癖ある人は わかもと の服用が好まし。まい日こゝろよき通じ定まり、五ぞう六ぶつねに若きすこやかさを保つ。
日曜表
育兒十二ヶ月
消化不良と脚氣の豫防に、發育の促進に、わかもとの著しき効果多言を要せず。實行法次の如し。
種まき
わかもとの效能一覽
病氣見舞に
わかもとは病氣の根元たる人體細胞の衰弱に活力を與へ、榮養を補給す。見舞に贈りて喜ばれる事うけあひ。
産前産後
複合
特許
類似
胃腸
榮養
わかもと本舖

賀戰捷之新春 併而 謝皇軍之奮闘

群山金融組合 理事 園

群山府本町通 渡邊仙藏 電話一四六番

沃溝郡職員一同

群山遊廓組合 組合長 向井松次郎

群山府會議員一同

群山府錦町 下平回漕店 電話二〇三番

朝鮮信託群山支店長 淺野敬二

三中井群山支店 支店長 西村慶一

群山商工會議所 議員一同

群山稅關支署長 津田莜雄

映畫常設 喜笑館 河上榮

群山競馬俱樂部

群山商工會議所議員 三浦保衛

群山府會出張所長 德原子之吉

産興株式會社 群山府明治町

群山專賣局出張所長 高原泰造

群山土曜會
朝鮮銀行支店
殖産銀行支店
商業銀行支店
朝鮮信託支店
貯蓄銀行支店
東一銀行支店

香原酒造場 群山府淺山町 電話四〇八番

群山府本町 松場蜜三郎 電話長四四〇 四一七番

大澤藤十郎 群山

佐藤農場 群山府新興町

湖南農具株式會社 群山府江戸町 電話(長)四三七番

旭水産株式會社 群山府本町二丁目

松本旅館 群山府明治町

群山郵便局 職員一同

群山公立中學校 職員一同

群山驛前 群タク 花タク 自動車部

道立群山醫院長 有馬長次郎

群山肥料株式會社 群山府江戸町 電話長四四六 七六四番

群山米穀商組合 組合長 田中龜次郎 副組合長 都宗太郎 理事 森新之助

群山米穀取引所 會員組合

牛尾正一 群山

群山青果株式會社 朝鮮群山府江戸町 群山府營食料品市場代行

群山商工會議所 副會頭 李晚秀

朝鮮銀行群山支店長 宇野吉太郎

朝鮮殖産銀行群山支店 支店長 押村暉臣

群山米穀取引所 理事長 森菊五郎 常務理事 正木憲一

群山府外開井里 株式會社 熊本農場 場主 熊本利平 支配人 柴山鼎

群山木曜會 南鮮合電群山支店 群山無盡株式會社

沃溝五日會 嶋谷農場 大成農場 八木農場

群山精米工業組合 朝鮮精米群山支店 花岡精米所 東亞精米所 吉本精米所 三南精米所

鮮米輸送協會 群山支部

群山府職員一同

株式會社 田中龜次郎商店 群山府本町

菱ク穀物協會

全北漁業組合聯合會 理事長 片山萬七 理事 中村二郎

全南トラック運輸株式會社 社長 小林藤太郎 專務 原口勝治

建築請負業 三垣秀一 光州

光州商工會議所

光州府本町五丁目 光州自動車用品石油商組合 電話五一六番

光州警察署 署長 須江睦茂 外職員一同

光州府内小學校 職員一同

全南原蠶種製造所 川中忠次 職員一同

光州本町三丁目 東亞婦人商會

光州稅務署 西原通次郎 職員一同

光州本町四丁目 富久乃家 原野貫一郎

光州營林署 出口利家 外職員一同

光州府光山町 東寫眞館 電話六二二番

光州府會議員 光州消防組頭 藤本一二郎

足立東三

朝鮮料理 西洋料理 春木庵 本店 光州府黄金町八〇

商談の御用は先づ當館へ！ 全羅南道商工奬勵館 お土産品には是非道産品を！ 電話五二四番

吉田直良 光州府鶴岡町

長城警察署 署長 井原義人 職員一同

全南日乃出自動車株式會社 取締役社長 吉田直良

難波照治 光州 鹽屋

映畫常設 帝國館 光州

繁清貞次郎

自動車及附屬品商 久野初藏 光州本町三丁目

渡邊洋服店 光州本町

光州刑務所 職員一同

和順郡廳 職員一同

全羅南道會副議長 湖南銀行常務取締役 金倍錫

和順警察署 職員一同

光州郵便所長 松田方仲

光州府會議員 岩男廣 光州府本町三丁目

株式會社湖南銀行

大澤商事株式會社

合名會社 鶴波農場 光州

光州醫師會

光州府黄金町六十七番地 全南産業株式會社

光州中等學校長一同

光州商工會議所 會頭 相場與作

辯護士 岩橋朝一 光州府明治町

全羅南道漁業組合聯合會 理事長 横山朝雄

光州酒造株式會社 取締役社長 松田德次郎

全羅南道立 光州醫院職員一同

岡田豐次郎 光州府旭町

光州府會議員 安藤進 光州府明治町

全羅南道會議員 内山重夫 光州府

長城郡廳職員一同

潭陽郡廳職員一同

明治生命保險會社全南募集事務所 島岡利一 光州府旭町

光州府黄金町 吉田鑛業所

南鮮合同電氣株式會社 光州營業所

光山郡廳職員一同

朝鮮料理 新光園 錦林 電話五二六番

全羅南道廳 高等官食堂員一同

光州金曜會

南朝鮮興業株式會社 光州驛前

光州府廳

光州商工會議所理事 加藤幾三郎

光州郵便局 局長 小池朝光 職員一同

加藤三郎

川原吉秀 光州明治町

右寺元

土木建築請負業 丸岡七郎 光州府不動町

朝鮮金融組合聯合會 全羅南道支部
全羅南道各金融組合
全羅南道各產業組合

光州纖維工業俱樂部
鐘紡全南工場
全南道是製絲株式會社
若林製絲光州工場
鐘紡光州工場